

〔江戸東京野菜生産流通拡大事業〕  
亀戸ダイコンのス入りと白さび病等障害の発生状況

馬場 隆  
(江戸川分場)

---

【要 約】冬季の栽培では秋季と比べ、ス入りがやや遅れるが、冬季でも根径 45～50 mmでは 20%がス入りとなるため、40 mm程での収穫が望ましい。また、夏季～秋季の栽培では対照品種に比べ空洞、裂開、白さび病が発生する。

---

【目 的】

亀戸ダイコンはス入りが発生しやすい。このため、年間を通してス入りの発生状況を把握すると共に施肥量との関係を検討した。また、空洞、裂開、白さび病等障害の発生状況についても調査を行う。

【方 法】

播種期の検討：分場の露地圃場に 70 cmベットを設置し、条間 15 cm，株間 15 cmとした。施肥は 10 a あたり N，P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>，K<sub>2</sub>O 各 12 kgの全量基肥とした。2018 年 9 月から 2019 年 9 月までに 7 回播種し、ス入りについて調査する。播種後夏季はトンネルを設置しサンサンネット（1 mm目合い）を展張した。冬季はパオパオをべた掛けした。

施肥量の検討：ス入りの対策として、施肥量半減区（N，P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>，K<sub>2</sub>O 各 6 kg）を設置し、2 月 14 日に播種した。

障害と白さび病の発生程度：対照品種「三太郎，早生四十日」を用い、障害と病害虫の発生について調査した。調査は「亀戸」は根径 40～50 mmで、「三太郎」は根径 50～60 mmで行い、殺菌剤の散布は行わなかった。

【成果の概要】

1. 播種日とス入りの関係をみると、冬季は秋季と比べ、ス入りが遅く、根径 45 mmほどからス入りが始まった（図 1）。
2. 施肥量の違いによるス入りをみると、施肥量半減区の方がス入りがやや早く根径 40 mm以下から始まった（図 2）。
3. 空洞と裂開は「亀戸ダイコン」では高温時に被害が見られたが、「三太郎」では被害が認められなかった。「早生四十日」は 1 月播種で空洞が見られた（表 1）。白さび病も同様に「亀戸ダイコン」は高温時に発病が見られた。
4. まとめ：「亀戸ダイコン」は根径 45 mmをスを超えると入り易いため、根径 40 mm程度で収穫した方が良い。また、「三太郎」と比べ高温時に空洞，裂開，白さび病が発生しやすいため、注意が必要である。

【残された課題・成果の活用・留意点】

3 月以降の播種では抽苔するものが見られた。夏季の栽培は、病害虫の発生，空洞等の障害，辛味が強いことが問題となる。

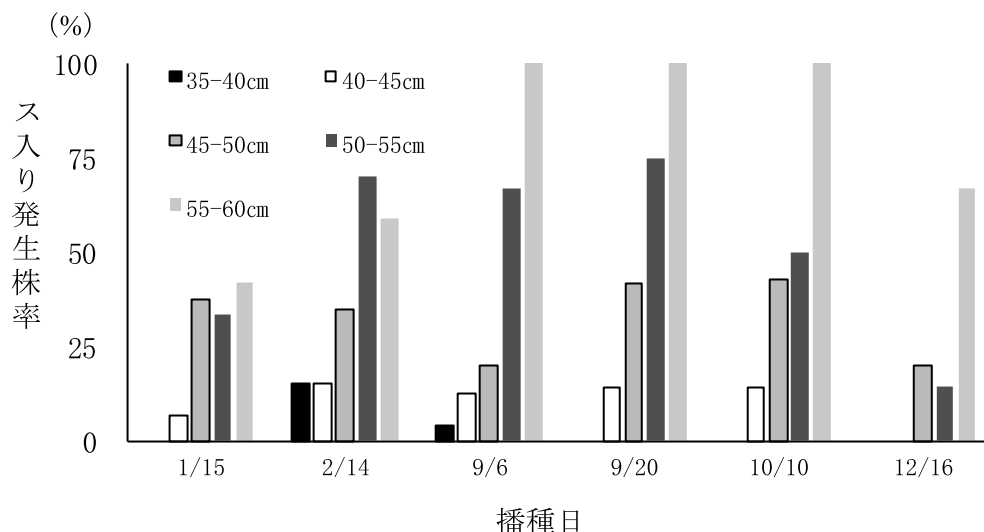


図1 播種日別ス入り発生株率

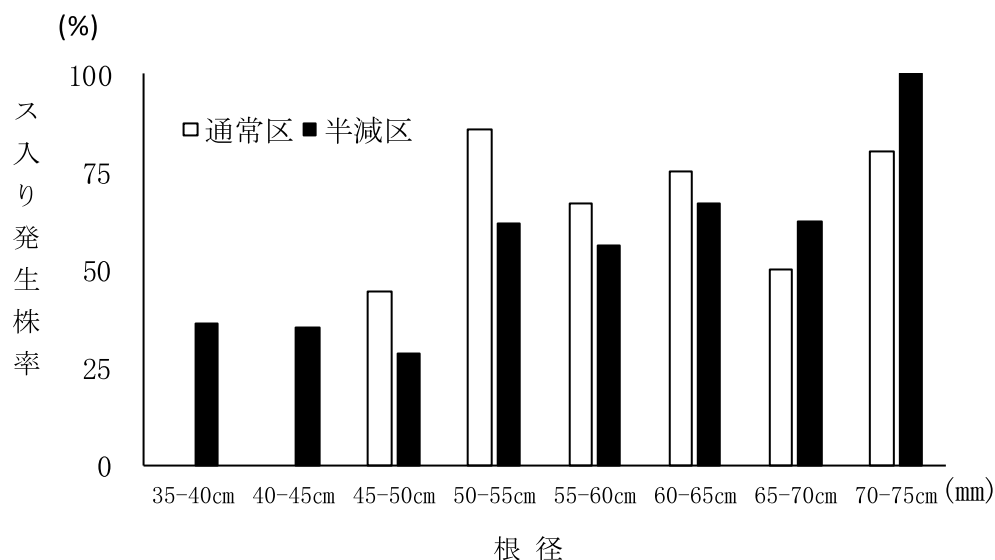


図2 施肥量の違いによるス入り発生株率

表1 障害と白さび病の発生株率 (%)

		播種日							
		1/15	2/14	6/17	9/6	9/20	9/28	10/10	12/16
空洞	亀戸	1.9	0.0	12.5	19.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	三太郎	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	早生四十日	6.5	抽苔		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
裂開	亀戸	0.0	0.0	0.0	16.3	8.0	0.0	4.2	0.0
	三太郎	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	早生四十日	0.0	抽苔		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
白さび	亀戸	0.0	0.0	53.1	19.4	18.0	0.0	4.2	0.0
	三太郎	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	早生四十日	0.0	抽苔		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注) 発生株率 = 発生株数 / 調査株数 × 100